中学校国語科の授業で起承転結をを意識して作文を書くという授業を計画しています。この授業に AI を使う場合、どのような点に注意すれば良いか教えて下さい。

中学校の国語科において、「起承転結」を意識した作文指導に生成 AI を導入する際、注意すべきポイントをガイドラインに基づき整理しました。

1. 事前の環境整備とルールの徹底

保護者の同意と利用規約の遵守: 中学生が利用する場合、利用するサービスの利用規約（ChatGPT であれば 13 歳以上、18 歳未満は保護者の同意が必要など）を確認し、必ず保護者の同意を得ることが求められます。

オプトアウト設定: 生徒が入力した内容が AI の学習に利用されないよう、**オプトアウト設定（学習させない設定）**を講じることが情報セキュリティ確保の観点から必須です。

事前学習の実施: AI を使い始める前に、AI の仕組み、情報の真偽が不確かなこと（ハルシネーション）、個人情報の入力禁止などの情報モラル教育を必ず実施してください。

2. 作文指導における「活用の適否」

不適切な例（コピペの禁止）：AI が生成した文章をほぼそのまま自分の成果物として提出させることは、生徒の学びにならず、不正行為に当たる可能性があるため、厳に慎むよう指導する必要があります。

適切な例（たたき台としての活用）： 構成案の検討: 自分で考えた「起承転結」の骨組みに対し、AI にアドバイスをもらったり、足りない視点を補ったりする「壁打ち相手」として活用します。

推敲の補助: 自作の文章を AI に校正させ、それを「たたき台」として自分なりに何度も推敲し、より良い文章に整えていく過程を重視します。

多面的な視点の獲得: 自分の主張に対する反対意見を AI に出させるなど、思考を広げたり深めたりするために活用することも有効です。

3. AIの特性（リスク）への理解

情報の真偽確認（ファクトチェック）： 生成 AI は「統計的にそれらしい応答」を生成するものであり、事実と異なる内容を出力することがあります
。作文内の事実関係については、生徒自身が教科書や質の担保された教材で裏付けをとる

よう指導してください。

人間中心の原則: AI の出力はあくまで「参考の一つ」であり、どの表現を採用するか、構成が論理的かどうかの最終的な判断と責任は生徒自身にあるという基本姿勢を徹底させます。

4. セキュリティと権利の保護

個人情報の入力禁止: プロンプトに氏名、住所、学校名、写真などの個人情報を入力させないよう留意してください。

著作権への配慮: 授業目的の範囲内であれば著作権者の許諾なく利用可能ですが（著作権法第 35 条）、外部のコンクールに応募する場合や、学校の HP に掲載する場合などは著作権侵害のリスクがあるため注意が必要です。

出典の明記: AI を利用した場合は、利用したツール名、入力したプロンプト、利用日などを出典・引用として明記させるルールを設けることが推奨されます。

5. 評価の工夫

過程の評価: AI とのやり取りの履歴（プロンプトと回答）を提出させたり、ワープロソフトの校閲機能で修正履歴を残させたりすることで、生徒がどのように思考し、推敲したかという過程を評価対象に含めることが有効です。

理解度の確認: 提出された作文の内容を生徒自身が十分に理解しているかを確認するため、口頭発表やグループ内での質疑応答の機会を設けることも検討してください。

これらの注意点を踏まえ、AI を単に作文を楽に書くための道具ではなく、批判的思考力を養い、表現を高度化するためのツールとして位置づけることが重要です